

ヨウ素とは

天然のヨウ素は、原子番号 35 番の物質で、天然のヨウ素は南米チリの硝石の副産物として 20,000 トン、日本の千葉県天然ガスの副産物として 9,000 トン、世界で年間約 29,000 トンしか生産されません。

ヨウ素は、海水に最も多く含まれます。太平洋のヨウ素は海草に吸収されて濃縮されます。やがて海草は腐食して海底に沈殿します。太平洋プレートが関東平野の下に潜り込む時、海草の沈殿物も同時に潜り込みます。沈殿物は地下 800m の地層でヨウ素の結晶体になりカンスイの中に溶存されます。数千万年の間、天然ガスと共に地下に眠ったヨウ素は、天然ガスと同時に採掘された後、分離抽出されます。

ヨウ化ナトリウム

天然のヨウ素は、服用に適さないヨウ化カリウムの状態で生産されます。

天然のヨウ素を科学的に処理して副作用の無い安全な（ヨウ化ナトリウム）にした製剤です。

ヨウ素には、以下の作用と機能があることが複数の研究者の間で確認されています。

1. 甲状腺の機能が上がる為に、免疫力が強化されガン細胞をおさえる働きが強化される。
2. 服用すると数秒で血液に溶け込んで、頭部および全体の細胞の活性酸素を過酸化水素に変換して無害な水に分解する。
3. 服用してもビタミンと同じように短時間で尿として対外に排出されるので過剰に蓄積されることはない。又、排出するとき体内の活性酸素を無毒化して排出する機能がある為に、万病の予防ができる。
4. 服用すると、全体内の細胞の新陳代謝が強化される。その一現象として肝臓の再生等も見られる。
5. 服用した製剤が直ちに甲状腺を満タンにする為に、放射線物質が甲状腺に侵入する事を防止できる。
6. ヨウ素には、人体の生体電位を正常化して人体を健康に導く機能がある。

「ヨウ素」 必須ミネラル・成人男女 130 μ g /日

成長促進作用

ヨウ素から作られた甲状腺ホルモンのチロキシンは、タンパク質、脂質、糖質、代謝に関与して基礎代謝を促進し、人体の成長と発育を促進する。交感神経の感受性を高めて精神を安定させる。

抗がん作用

ヨウ素には、科学反応力と細胞内液中の活性酸素などの酸化還元作用があります。その時に生産されたヨウ素カチオンは、がん細胞やアレルギー過剰免疫細胞を構成する、ヒドロキシラジカルやフリーラジカルを細く結合して、その98%を尿として排出してくれます。結果的に、ヨウ素は細胞のガン化を防止すると同時に、がん細胞の増殖を抑え、がん細胞をアポトーシスに誘導して死滅させると言われています。

肝機能改善作用

肝硬変、肝がんは、アルコール性、ウィルス性肝炎によって生じる活性酸素による酸化ストレスによって発生する事が解明されています。又、活性酸素の抗酸化過と酸化脂質のヨウ素化によって炎症の拡大を防ぎ、3ヶ月程度で傷んだ細胞機能を修復する事が解明されています。

ヨウ素の使用について

参考目安摂取量

科目	摂取量	備考
がん対策	原液 50ml を 500ml の水で希釈し、1日5回に分けて飲む	医師に相談
内臓疾患	原液 20ml を 500ml の水で希釈し、1日3回に分けて飲む	医師に相談
美容健康	原液 20ml を 500ml の水で希釈し、1日かけて飲む	

ヨウ素は飲むと甲状腺に集まり作用します。その為、甲状腺疾患や甲状腺に手術歴がある方は飲用に適しません。また余剰ヨウ素やヒドロキシラジカル・フリーラジカルなどを尿として排出する為、腎臓疾患、透析中の方にも適しません。

臨床試験者：聖マリアンナ医科大学名誉教授 飯島 登

強壮・高血圧・動脈硬化 以上3種類については薬事法許可効果

放射線被爆障害・甲状腺機能低下

神経機能障害・脳神経衰弱・脳腫瘍・アルツハイマー・痴呆症

自律神経失調症・神経痛

肝機能障害・肝硬変・急性肝炎・慢性肝炎・肝臓がん・黄疸

腎機能障害・腎不全・腎盂縁・糖尿病

循環器障害・動脈硬化・心筋梗塞・脳梗塞・高血圧・低血圧

呼吸器障害・気管支炎・結核・喘息・アレルギー性鼻炎

消化器障害・胃腸疾患・胃潰瘍・腹膜炎

更年期障害・骨粗鬆症・子宮内膜炎・白内障・緑内障

免疫機能障害・リュウマチ・アトピー性皮膚炎・失神

ウィルス感染症・HIV・梅毒

科目外・・・筋ジストロフィー・スモン病・ネフローゼ・水俣病

全てのガンに効果が見られるが特にリンパガン、血液ガン、転移ガンにも対応できる。

白血病には驚くべき効果を発揮する。

ヨウ素の歴史的経緯

1811年 フランスの科学者クールトアがヨウ素を発見

1816年 無機ヨウ素の最初の利用。ゴイタ病の治療薬に利用。

1828年 ヨードチンキの開発。殺菌、消毒剤に使用。

1933年 牧野民蔵医学博士、無機ヨードに転換する技術を確立（経口水液、カプセル油液、注射液）。

1937年 内務省（現厚生労働省）より医薬品としての製造許可を得る。

1938年 モンゴル・チベットのらい病疾患、中国の麻薬患者に3年間提供し多くの効果をあげる。

昭和初期 東京麻布にマキノ診療所開設。結核、日本脳炎、癌の治療を始める。1日50人限定治療。しかし近在の医師、医師会から迫害を受けやむなく診療所を閉鎖。神戸市芦屋に移転し、会員制の診療所を開設。難病治療に従事。

1950年 広島原爆患者を1年間治療。放射線治療に効果を発揮。

1953年 大阪ヨード製薬株式会社を設立。

1964年 長岡鉄吉（物理学者長岡半太郎の息子）や日本医学協会の著名な先生方の要望により小田原に製薬会社を移転。

1968年 厚生省より医薬品製造承認許可。

2000年 緑内障用の点眼薬の開発。

2002年 タイ赤十字病院がエイズ患者に有機ヨードを投与したところ、20日間でエイズウィルス（HIV-RNA）が37万から18万に減少したと報告。

2004年 7月1日世界保健機構（WHO）から有機ヨードを、エイズ、鳥インフルエンザ、癌の臨床試験に使用しても良いとする特別許可を受ける。